

製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名： KDブランアップ

会社名：共同印刷機材株式会社

住所：北海道札幌市中央区北1条西18丁目

担当部署：営業部

電話番号：011-611-7221 FAX番号：011-611-7224

緊急連絡先：電話番号：011-611-7221

作成日：平成22年12月27日

推奨用途及び使用上の制限：印刷機用洗浄剤

整理番号：640081-4 ver. 1.0

2. 危険有害性の要約

健康に対する有害性：	急性毒性（経口）	区分4
	皮膚腐食性／刺激性	区分2
	眼に対する重篤な損傷／眼刺激性	区分2A
	発がん性	区分2
	特定標的臓器／全身毒性（単回暴露）	区分1（中枢神経系、肺）
		区分3（麻酔作用）
	特定標的臓器／全身毒性（反復暴露）	区分1（中枢神経系、肝臓）
環境に対する有害性：	水生環境有害性（急性）	区分2
	水生環境有害性（慢性）	区分2

<GHSラベル要素>

絵表示



注意喚起語

危険

危険有害性情報

飲込むと有害

皮膚刺激

重篤な眼への刺激

発がんのおそれの疑い

臓器の障害（中枢神経系、肺）

眠気及びめまいのおそれ

長期または反復暴露による臓器の障害（中枢神経系、肝臓）

水生生物に毒性

長期的影響により水生生物に毒性

注意書き

【予防策】

- ・すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
- ・この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。
- ・取扱作業場所には、局所排気装置を設けること。
- ・保護手袋／保護眼鏡／保護マスクを着用すること。
- ・取扱い後は良く手を洗うこと。
- ・ミスト／蒸気を吸入しないこと。
- ・換気の良い場所でのみ使用すること。
- ・環境への放出を避けること。

【対応】

- ・飲込んだ場合は、水で口をすすぎ、気分が悪いときは医師に連絡すること。
- ・皮膚に付着した場合は、多量の水と石けんで洗うこと。汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
- ・皮膚刺激が生じた場合は、医師の診察／手当てを受けること。
- ・眼に入った場合は、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・眼の刺激が続く場合は、医師の診察／手当てを受けること。
- ・吸入した場合は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・暴露したとき、または気分が悪いときは医師に連絡すること。
- ・漏出物を回収すること。

【保管】

- ・施錠して一定の場所に保管すること。

【廃棄】

- ・内容物／容器は地方自治体の規則に従って廃棄すること。

国／地域情報：「15. 適用法令」の項 参照

3. 組成及び成分情報

単一製品／混合物の区別：混合物

製品の化学特性に関する情報

成分

成 分 名	含有量(%)	CAS No.	官報公示整理番号
ジクロロメタン	90-99	75-09-2	(2)-36

4. 応急措置

吸入した場合	：身体を毛布などで覆い、保温して安静を保つ。患者を風通しの良いところに移して安静にする。大量に吸入した場合には、速やかに医師の手当てを受ける。
皮膚に付着した場合	：汚染された衣類は脱ぎ去り、多量の水及び石けんで洗い流す。皮膚刺激が生じた場合は、速やかに医師の手当てを受ける。
眼に入った場合	：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は、速やかに医師の手当てを受ける。
飲込んだ場合	：無理に吐き出そうとせず、水で口をすすぎ、速やかに医師の手当てを受ける。
応急措置をする者の保護：救助者が有害物質に触れないように保護具を着用する。	

5. 火災時の措置

消火方法	：引火点がなく実用上は不燃性であるが、火災または高温により有毒なガス（塩化水素）が発生するので、呼吸用保護具を着用する。
------	--

消火剤 : 泡消火剤、炭酸ガス、粉末消火剤、乾燥砂

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項 : 作業の際には保護具（保護手袋、呼吸用保護具等）を着用し飛沫などが皮膚に付着しないようにする。風下の人を退避させる。

環境に対する注意事項 : 流出した製品が河川などに排出されないように注意する。

除去方法 : 少量の場合には、乾燥砂、ウエスなどに吸収させて密閉できる容器に回収する。大量の場合には、盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。製品を吸着または吸収したものは、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に従って適正に処理する。外部委託の場合は、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託する。（「13. 廃棄上の注意」の項 参照）

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 : 吸入、接触のおそれがあるときは、適切な保護具を着用する。容器の開栓は、内圧に注意して徐々に行う。

注意事項 : 暴露防止のため、保護具を着用して作業を行う。取扱場所では換気を充分に行い、また近くに手洗い、洗眼などの設備を設ける。

安全取扱注意事項 : アルミニウム（合金を含む）製の容器に移し替えないこと。

保管

技術的対策 : 通風を良くし、蒸気が滞留しないようにする。

混接触禁止物質 : アルミニウム（合金を含む）製の容器に移し替えないこと。

保管条件 : 漏洩の防止。容器を密閉し、直射日光を避け、高温物を近づけない。換気良好な冷暗所*に保管する。（* 0℃以下になるような場所には保管しない）

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策 : 取扱いについては局所排気装置を設置した場所で行う。

保護具 : 必要に応じて、呼吸用保護具（有機ガス用防毒マスク）、保護手袋、保護眼鏡、保護衣を着用する。

含有成分の許容濃度

成分名	管理濃度 (労安法)	許容濃度	
		日本産業衛生学会(2008年度版)	ACGIH TLV-TWA(2008年度版)
ジクロロメタン	50ppm	50ppm	50ppm

9. 物理的及び化学的性質

外観等 : 淡黄色透明液体

臭い : 塩素系溶剤臭（香料あり）

沸点 : 40℃（ジクロロメタン）

引火点 : なし

爆発特性 : データなし

密度 : 1.30-1.35 g/cm³

水に対する溶解性 : 難溶

10. 安定性及び反応性

安定性 : 通常の使用条件下では安定性が高い。

反応性 : 特記すべき反応性はない。

危険有害な分解生成物 : 加熱や燃焼により、塩化水素を生じる。

11. 有害性情報

[ジクロロメタンの情報を記載]

急性毒性 : LD₅₀ : 1,600mg/kg（ラット経口）

皮膚腐食性／刺激性 : 皮膚刺激 中等度（ウサギ）

眼に対する重篤な損傷／眼刺激性 : 刺激性 中等度～重度（ウサギ）

呼吸器感作性または皮膚感作性：データなし

生殖細胞変異原性：経世代変異原性試験 陰性

発がん性：IARC グループ 2 B ヒトに対して発がん性を示す可能性がある
 NTP R ヒト発がん性があると合理的に予測される物質
 EPA B 2 動物での十分な証拠に基づいて、おそらくヒト発がん性物質
 ACGIH A 3 動物に対して発がん性が確認された物質であるが、ヒトへの関連性は不明

生殖毒性：データなし

特定標的臓器／全身毒性（単回暴露）：

ヒトについては「チアノーゼ」、「頭痛、胸部痛、見当識障害、進行性の警戒性の喪失、疲労感と無気力状態の亢進、記憶喪失、時間感覚の喪失」、「視覚機能検査のうち臨界flicker frequencyの減少」、「神経行動学的な影響（警戒心の混乱、複合警戒追跡行動の障害）」、「肺の出血を伴う浮腫、皮膚の炎症：硬化を伴う肺炎、小脳扁桃ヘルニアを伴う大脳浮腫」等の記述がある。

臓器の障害：区分 1（中枢神経系、肺）

眠気及びめまいのおそれ：区分 3

特定標的臓器／全身毒性（反復暴露）：

ヒトについては「断続的頭痛、吐気、眼のちらつき、息切れ、一過性の記憶障害、脳波検査で右脳の障害」、「暴露後、幻聴及び幻視を伴う脳症が出現」、「知能障害を伴う記憶障害と平衡感覚喪失。両側性一過性側頭葉の変性」等の記述がある。

長期または反復暴露による臓器の障害：区分 1（中枢神経系、肝臓）

吸人性呼吸器有害性：データなし

出典：GHS危険有害性分類結果（GHS関係省庁連絡会議）

12. 環境影響情報

〔ジクロロメタンの情報を記載〕

生体毒性（魚毒性）：LC₅₀(48h)：33mg/L（ヒメダカ）
 LC₅₀(96h)：5.2mg/L（ファットヘッド・ミノー）

残留性／分解性：難分解性（BOD 5～26%）

生体蓄積性：低濃縮性(コイ) 濃縮倍率13倍以下/6週

環境基準：水質汚濁に係る環境基準（人の健康の保護に関する環境基準）0.02mg/L以下
 土壌の汚染に係る環境基準 0.02mg/検液L以下

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物：本製品を含む廃棄物は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律で特別管理産業廃棄物（ジクロロメタン）に規定されているため、法令に従って適正に処理する。

汚染容器／包装：空容器は内容物を完全に使い切った後、産業廃棄物として処理する。包装材料は産業廃棄物として処理する。

14. 輸送上の注意

国連分類：クラス 6. 1（毒物類）

国連番号：1593

品名：ジクロロメタン

容器等級：III

海洋汚染物質：該当しない

安全対策及び条件：運搬に際しては、容器の漏れのないことを確かめ、転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

15. 適用法令

消防法：該当しない

